

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、課題解決のため周囲と共同できる生徒 ・互いの人格を尊重し、意見を交流しながら、自らの役割と責任感を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のために、地域や社会の構成員として貢献できる生徒 	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> ・課題の発見、解決能力を伸長するための「主体的・対話的で深い学び」・「探究的な学び」の推進 ・ICTを積極活用した教科指導 ・探究的な学びでの、コミュニケーション能力と情報発信力の育成 ・生徒の個性や長所、自己肯定感を伸長するためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施 	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や学校行事などに自主的、主体的に参加し、より良い学校や人間関係を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇ 生徒指導(教育相談)・特別活動・保健管理	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・<生徒>「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。」(肯定的評価97.3%) ・<保護者>「学校は、個々の生徒の相談に丁寧に応じている。」(肯定的評価89.7%) 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる学習活動及び特別活動を通して、生徒の主体性を育み、自己肯定感を高めるように努める。 ・自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築かせるとともに、社会性の育成に努める。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の課題に対しては、管理職の指導の下、担任、教科担任、養護教諭からの情報を生徒指導主事がとりまとめた上で取り組む。 ・育成を目指す資質・能力について、教科等横断的な視点で取り組む。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 全職員による多面的な生徒理解に努め、個性を尊重するとともに、各種講話や授業を通じて規範意識の向上を促す。 (2) 学校行事・部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が主体的に活動できる場の提供に努める。 (3) 全ての教師があらゆる機会をとらえて生徒一人一人を理解し、生徒の日常の僅かな変化を捉え、積極的な教育相談に努めるとともに、いじめの早期発見・早期対応につなげる。	(1) 生徒及び保護者を対象とするアンケート 学校生活に関するアンケート (2) 学校行事・生徒会活動の振り返り 部活動加入者数及び活動状況・大会成績 (3) 各種講話の振り返り及びアンケート	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・各種懇談(年5回)や学校生活アンケート(年7回)、心のアンケート(年4回)を実施し、生徒の実態把握に努めた。 ・外部講師による講話を年間3回「情報モラル」「SOSの出し方」、「薬物講話」を実施した。 	① 居心地度の経年比較 ② 講話終了後の感想などが前向きで肯定的なものであるか。	(A) B C D (A) B C D

<ul style="list-style-type: none"> 文化祭等の行事を生徒が中心となり、主体的に活動できる機会を設けた。 職員会議や毎日の夕会、更には1日を振り返る中で教員間での情報共有を行った。 	③ 生徒会活動や学校行事を通じて成長は見られたか。	A (B) C D
12 成果 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○年3回実施した外部講師による講話における生徒たちの感想は、大半が前向きなものであり、社会性の育成につながっている。 ○懇談や学校生活アンケート、心のアンケートを活用して、早期に生徒の困り感などを把握し、対応することができた。さらに必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の助言を受けることで、積極的な教育相談を行うことができた。 ○生徒の多くは、学校行事等において、与えられたテーマに対して積極的に取り組む姿勢が身に付いている。また生徒が主体的に計画し、判断し、行動する力が身に付いてきており、生徒会活動が活発になっている。 ▲欠席過多になる生徒の割合が増加傾向にある。欠席が増えることで学習の遅れに繋がっているため、改善に向けて原因を探り究明し、改善に向けてさらなる生徒理解と支援をしていく。 	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動においては、行事の企画・運営が生徒主導で行われ、学校生活のあらゆる場面で、生徒の意見がより多く反映されるよう、教員が支援する。ルールやモラルに関する指導も、教員主体ではなく生徒が主体的に関わる場面を多く設ける。生徒会役員等が率先して動き、働きかけ、全校生徒の見本となることで、全ての生徒が進んで自らを律することのできる体制を確立する。 個々に多様な課題を抱える生徒が多い本校定時制では、より教育相談的機能を充実させなければならない。そのために、すべての教師があらゆる機会をとらえて生徒一人一人を理解し、生徒の日常の僅かな変化を捉え、積極的な教育相談に努めるとともに、外部機関との連携により専門的知識に基づいた支援を行っていく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒への指導の在り方を良く振り返り、生徒の声を聴く指導を行ってほしい。 中学校の時はあまり登校できなかったこともあり当初は不安もあったが、高校ではほとんど毎日登校することができ、先生方の指導に感謝する。 次の世代の生徒たちにも、これまでと変わらぬ支援や指導をしてほしい。
--